

NEXT
55
みんなの力で、みんなの幸せを
SAWARABI
さわらび

- 1 表紙 バスハイク 関ヶ原古戦場記念館 ～障害福祉サービス事業所 明日香～
- 2 医学講話 福祉村病院20年の思い出
◆福祉村病院 院長 小橋 修
- 6 特集 さわらび会の防災・減災対策

2026
vol.641

9



医学講話

福祉村病院院長

小橋修



福祉村病院

20年の思い出

私の半生は、九州大学医学部胸部疾患研究施設に始まります。結核菌の成分が免疫を劇的に活性化することに魅せられて、その最小有効成分の探究に没頭しました。アメリカUCCLA留学でのアジュバント関節炎の研究で、その最小有効成分がNアセチルムラミールジペプチドであることを発見し、パストール研究所に呼ばれて発表しました。帰国後、福岡の国立呼吸不全センターで一年半、続いて東海大学医学部で腸内細菌と自己免疫病の研究の5年、そして母教室の呼吸器内科に5年、平成元年に佐賀大学医学部で、中国とバングラデシユからの国費留学生との研究指導で、彼らは医学博士を取得しました。そのうちの5名のア

メリカ留学先の大学研究室を敬愛訪問しました。彼らのアメリカでの研究者としての成長ぶりを見て感動しました。佐賀大学医学部と看護大学、佐賀県立看護学院、国立病院の看護学部、民間の看護学校で、定年までの17年間を、公私にわたって楽しい実りある充実した教育と研究の日々を過ごしました。

かつて東海大学医学部在任のおり、補体研究が縁で交流のあった岡田秀親先生から、定年後は福祉村病院にこないかという誘いを受け、気軽な気持ちで、豊橋に来て山本理事長にお会いした日に、院長をやってくれないかとの申し出を受けました。予想外でしたが、「迷惑がかかるようならすぐやめれ

ばいいや」と考えて、お引き受けいたしました。引き受けた以上は、定年までの2ヶ月半、福祉村病院で臨床医として働くうえで、恥ずかしいように、6冊の神経心理学コレクション、精神薬理学エッセンシャルズ第3版、高齢者の三大疾患の心不全、誤嚥性肺炎、COPD、そのほか合併症としての糖尿病と慢性腎臓病に関連した著名な本を購入して手当たり次第に読みこみました。

「いいや」という内容の手紙に応募しました。幸いアクセプトされ、日本格言集に収録されました。

就任早々に、山本理事長から、

毎朝「朝の言葉」の福祉村病院憲章について、従来のものを叩き台にしてあなたの思いの言葉を書いてくださいとの申し出をいただきました。敬愛し熟読していた中村天風の書籍から看護学院での臨床心理学教育の一環としてキュープラロスの「死ぬ瞬間」のシリーズ数冊や生命倫理関連の本、終末期の肉親のケアの体験談などを総動員して、毎朝、皆さんが読んでいる福祉村病院憲章を書き上げました。また、理事長からは、臨床に關しては、あなたの考えで、存分に思う通りにやっていいですよと温かい言葉をいただき、それに甘えて、はや20年という長きにわたって、勤めさせていただきました。その時々が高齢者医療で経験したことや、参考書として読み漁っていた本を参考に色々と福祉村病院、介護医療院や関連諸施設の方々にも役立つようにと、出来るだけわかりやすいように工夫して、この20年間休むことなく毎月第4木曜日の朝の言葉や、さわらび会誌

の3月号と9月号の医学講和に書かせていただきました。今これらを読み直してみると、20年間の軌跡が今更のように思い浮かんできます。

一方、組織改革などの病院の院長としての役割は十分に果たすことができず忸怩たる気持ちが残りますが、私自身にとっては、高齢社会から超高齢社会の日本における医療のあり方について多々学ぶチャンスが与えられたことを心より感謝しています。

当時、イギリスのパーソンセンタードケアが日本の認知症ケアの中心的指導原理になっていました。パーソンセンタードケアも、アメリカ発のバリデーショナルケアも発表後10年を経ても、十分に開発者の期待通りの普及が見られなかったことの反省期でもありました。実際に病棟や外来で対応した高齢認知症患者さんのケア、およびケアにあたっているご家族の対応において、「もっと良いケアはないか」「もっと人としての尊厳に近づくより良い方法はないか」などと臨床の中で今一つしっくりこない点にもどかしさを感じていました。このような時に、素晴らし

いフランスのユマニチュード技法を知りました。このユマニチュードの技術を日本に輸入し、ユマニチュード学会まで設立された本田美和子医師の著作を読み、ユマニチュードのなんたるかについての知識を蓄え、その間に大島寿美子氏の「絆を築くケア技法」ユマニチュード「人のケアから関係性のケアへ」という目からうろこが落ちるほどの素晴らしい著作に出会い、貪るように読み込み、ユマニチュードの理解が深まり、長年の疑念が解決できる素晴らしい技法だと感激しました。このユマニチュードの、実践的な技法、「みる、話す、触れる、そして最も大切な立つ」ことの4つの技法」と、患者さんとの心をつなぐ5つのステップという技法は、誰にでも学べる、すぐに役立つ素晴らしい実践的な技法であることを知りました。ユマニチュードの技法は、高齢認知症患者さんのケアがうまく行ったケアやうまくいかなかったケア、うまく行った技法であって、も対象の患者さんが変われば、あるいは同じ患者さんであっても時期が異なるとうまくいかなかったという沢山の経験の中から、なぜ

この技法がうまく行ったのか、なぜうまくいかなかったのかについて、著者らは、現場をしっかりと観察し、その理由を考え、改善することを30年という長い実臨床の現場で磨き上げて完成していったユマニチュードの技法であることを知りました。患者さんとの信頼関係、良い絆を結ぶことがケアの基本として、それを実現するために、だれにでもできる、普段すべての人が日常当たり前に行なっている4つの見る、話す、触れる、立つと、心をつなぐ5つのステップを意識的にすべての患者さんに、すべてのスタッフが行うことで、患者さんとの信頼関係が生まれ、良い絆が結ばれることによって、BPSDなるものは生じないし、生じているBPSDも消えてしまうという大変臨床倫理的にも優れた技法であることに感動しました。これらから得た技法を、訪問リハビリにおいて実践でき、かつその優れた良さが目に見えて実感できる機会を持てたことは私にとつての大きな財産となっています。ユマニチュードの技法は、フランスはもとよりアメリカ、カナダでも実践され始め、日本でも少しずつ見直されて

きているのを感じています。ただ私の力のなさで、福祉村病院やさわらび会の諸施設に十分にユマニチュードの技法が定着できなかったことが私の心残りの一つです。その悔しさから、定年後ふるさと福岡に帰って、残りの人生を「福岡100」プロジェクトに選ばれたユマニチュードを実現している病院の現場で、ボランティアとして参加できれば、これ以上の至福の人生はないという希望を抱いています。

令和8年度、福祉村を去るにあたって、20年以上の長きにわたって、山本理事長とゆかり専務の心温まる身に余るご厚情を受けたことに心より深い感謝を捧げたいと思います。

また、福祉村病院の沢山のスタッフの皆様にも数々の御厚情を賜りましたこと、この場を借りて心より感謝いたします。

研究通信

news of study

Vol. 190

福祉村病院神経病理研究所 所長

橋詰 良夫

認知症のない人の神経病理所見

◆はじめに

当院で剖検され、私自身が神経病理診断を行った450例のうち、臨床的に生前認知症が指摘されておらず、また神経病理所見からも認知症の病変を指摘できない症例が50例あった。本稿では認知症を示さなかった人の脳病理所見の概要をまとめた。

◆肉眼所見

成人日本人の脳重量の平均は男性1350～1400g、女性1200～1250gである。当院は高齢者認知症専門病院であるので、この重量よりは軽い。認知症のない人の脳重量は多くは1250gから1000gで、1000g以下のことはないのが通常である。外表面では

穹窿面からみて大脳半球は通常、左右差がなく、ほぼ左右対称である。脳回浮腫を示すことなく、また限局性の萎縮はない。Willis輪を構成する脳底部の血管に軽度ないし中等度の動脈硬化を認めるが高度な動脈硬化はない。矢状断で脳室拡大や脳梁萎縮はない。皮質白質が境界明瞭で、皮質の幅の萎縮がない。白質の色調、硬さに異常がなく、陥凹もない。脳梁の厚さも正常である。側脳室の拡大もなく、認知症でよく認められる側脳室下角の拡大はない(図1)。

◆組織所見

通常はH-E染色とKlüver-Barrera染色標本で組織診断を始める。Klüver-Barrera染色標本で大脳半球の萎縮の程度や脳室拡大の程度、皮質白質の境界の明瞭さを確認する。白質の髄鞘脱落がないこと、基底核、視床などの構築が保たれていること、辺縁系などの限局性の病変のないことを確認する。皮質の神経細胞の層状構造が維持されて明らかな神経細胞脱落はない。白質では髄鞘の脱落の程度を検討するが、高齢者ではしばしば特に認知症がなかった脳でも淡明化が認められるので、その

意義については臨床、画像との関連で検討する必要がある(図2)。小脳、脳幹部、脊髄でも同様に種々の構造物の異常を検索する。H-E染色はすべての染色標本の基本で、神経細胞の脱落の有無、虚血性病変の程度、炎症細胞浸潤、種々の封入体、反応性アストロサイトの出現程度が確認しやすくて病変の有無を検討できる。特殊染色では認知症の脳の病理所見の検討ではGallyas染色が最も重要で、神経原線維変化、老人斑、嗜銀顆粒などの確認が容易である。その他、必要に応じてHolzer染色、PAS染色、コンゴ

レッド染色、Azan染色、Berlin blue染色を施行し、異常な病変のないことを確認する。各種抗体を用いた免疫染色は β -protein、tau、 α -synuclein、TDP-43などの異常蛋白の蓄積程度を検討し、認知症の所見がないことを確認する必要がある。

◆おわりに

臨床、病理の両面から認知症がないという証明は決して簡単ではない。正確な臨床症状の把握と画像所見、検査所見を検討し、症例ごとに病理所見を詳細に検索する必要がある。今後とも臨床病理検討会を通して、地道な症例の蓄積が重要である。これらの結果が認知症予防につながることを期待する。

て、地道な症例の蓄積が重要である。これらの結果が認知症予防につながることを期待する。

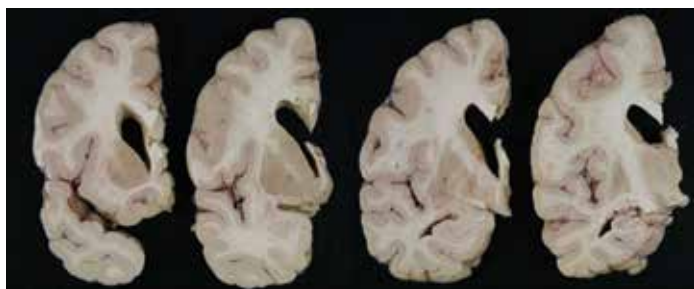


図1 大脳断面 肉眼所見



図2 大脳断面のKlüver-Barrera染色標本

とよはしみんなのまちなか絵画展に出展

今年度「とよはしみんなのまちなか絵画展」に、さわらび会施設利用者様が作品を出展しました。今回は豊橋市制施行120周年を記念した企画となっており、全120作品が展示される予定です。

美術博物館での展示期間中には、来場者が気に入った作品に投票する企画が実施され、得票上位の作品には表彰が行われます。

まちなか絵画展出展リスト

【あかね荘】

「共にある日」 松田修司 様
「色の風」 野口昌孝 様
「流れにのって」 河合宏幸 様
「喜びのかたち」 渡邊俊匡 様
「出会いの広場」 手塚吉一 様
「ひなたぼっこ」 白川幸一 様
「光の通り道」 森寺可直 様
「旅する生き物たち」 大島康之 様
「生命のリズム」 羽田野充司 様
「スカート」 大和田努 様
「まなざし」 匿名希望
「記憶の渦」 匿名希望

【しろがね】

「海から昇る朝日」 杉浦永将様
「浜名湖の弁天島」 倉田貴司様
「八村塁」 後藤晃佑様

【明日香】

「加茂しょうぶ園」 山口剛史様
「いろんなくだもの」 曾田紀子様
「ねことさかなのなかまたち」 彦坂奈津江様
「いっしょにおよぐよ」 服部憲政様
「ひまわり」 熊谷優様
「いろんな夏」 前田薫様
「海のいきものたち」 鈴木健太様

【珠藻荘】

「キュウリとハクサイ」 上田ひろみ 様
「ひまわり」 杉原康予 様
「男の子」 小田智也 様
「花」 吉田直次 様



令和8年度 とよはし

みん
な
の
まちなか
絵画展

vol.6

展示期間

- 9/17(木)～10/2(金)
豊橋市役所ギャラリー
- 10/13(火)～10/23(金)
こども未来館
- 1/19(火)～1/24(日)
豊橋市美術博物館

特集

さわらび会の防災・減災対策

■医療法人さわらび会

老人保健施設ジュゲム・福祉村病院では、災害発生時に他施設からの利用者様の避難を受け入れることが可能な施設として、市の指定を受けております。災害時における利用者様の安全と生活環境を確保するため、非常時に使用できるガス発電機をはじめ、水・食料・衛生用品・段ボールベッド等の必要物品を備蓄し、ライフラインが停止した場合にも一定期間対応できるように備えています。

また、平時から施設内の避難経路や動線を確認し、避難の妨げとなる物品を置かないなど、安全かつ円滑に避難できる環境の確保に努めています。

さらに、11月には火災発生を想定した避難訓練を実施する予定です。訓練では災害対策本部を設置し、利用者様の安全確保を最優先とした初動対応に加え、各フロアとの連絡・情報共有の手順を確認します。実際の災害を想定した訓

練を通して、職員一人ひとりの対応力を高め、災害発生時に迅速かつ適切に行動できる体制の整備を進めていきます。
(白井)

■珠藻荘

珠藻荘では、日ごろより災害時や新型コロナウイルス感染症の流行時においても、利用者様の安全を確保し、適切な支援を継続できるように、防災・感染症対策の体制整備に取り組んでいます。実施している訓練としては、火災想定防災訓練に夜間を想定した防災訓練、また、地震を想定した防災訓練に加え、炊き出し訓練および発電機の取扱訓練を実施し、災害時に必要

となる対応力の向上に努めました。

また、地域の要配慮者の受け入れ施設として、



災害時に必要となる食料や生活物資などの備蓄も計画的に整備しています。さらに、防災委員会を中心にBCPに基づく避難誘導マニュアルの作成や、研修・机上訓練を通じた職員の知識と対応力の向上に取り組んでいます。感染症対策では、感染症BCPに基づく研修や訓練を継続し、ゾーニングや個人防護具（PPE）の正しい着脱手順の確認に加え、初動対応や連絡体制の再確認も行っています。今後も継続的な訓練と研修を通して、安全で安心できる施設づくりに努めてまいります。
(桜井)

■障害者支援施設 あかね荘

〈災害対策〉

大規模災害とは様々な自然災害がありますが、施設としては特に地震や土砂災害の訓練等を行っています。また災害が起こった際には、非常食や飲料水を1週間分準備し、また発電機や衛星電話等を

災害備蓄品として用意しています。

そしてあかね荘では、BCPの職員研修を行っております。職員の安全確保と継続的な利用ができるように自然災害発生直後から、状況がどのように変化するかを想定し、職員が行う対応を時系列にまとめたシナリオを使って行う訓練（机上訓練）を行いました。初動の動きや優先する業務の再確認ができ、意見交換することによりBCPの見直しにも繋がっています。今後も様々な想定での訓練を行い、改善に繋がってまいります。

また災害伝言ダイヤル、職員の安否確認の緊急連絡の練習、発電機や衛星電話の使用の確認を継続的に行っていきます。また災害備蓄品の確認を再度し、必要



物品を整え、いつ災害が起きても困らない準備をしていきます。

そして福祉避難所の役割として大規模災害が起きた時には、その時の現況を把握し、各施設間での受入の可能状況を共有するための連絡所を設置する体制づくりも行っています。

(朝倉)

■明日香

明日香では、近年震度5以上の地震が多発していることもあり、避難訓練を毎月行っています。

回数を重ねることで、地震が来た時に慌てず、自身で身を守り、地震が収まった後、どのように避難し何をするか、訓練を通して確認して、これを常態化しています。

また、帰宅困難になった場合、明日香で過ごすために、炊き出し、簡易トイレの設置、寝床を作る等の訓練も年1回実施しています。

災害はいつ来るのか分からないので、訓練を継続して行い有事に備えていきます。

(岸)



■福祉村障害福祉サービス事業所 しろがね 福祉村障害福祉サービス事業所 すみれ

〔災害対策〕

大規模地震が起こった際には、食料等の救援物資が届くまで、電気やガス等が復旧するまでを耐える必要があります。能登大震災の支援状況を鑑み、食料や飲料水1週間分を災害備蓄として、発電機やその燃料、簡易トイレ、衛星電話をインフラ設備として用意しています。

しろがね、すみれでは2カ月に1度、地震や火災を想定した避難訓練を実施しています。繰り返し訓練を行う事で、回を追うごとに避難完了までの時間が短くなっています。訓練を行う中で、ヘルメットや防災頭巾を置いておく場所、日常的に使う物品の配置等を見直し、速やか且つ安全に避難できるようなその都度改善を行っています。

防災食の入れ替え時期には炊き出し訓練も行い、被災した際の動き方の確認やシミュレーションも行っています。避難所での生活では食事が冷たいことが多く、温かい食事が心の支えになることが



豊橋市
防災危機管理課

あります。いざというとき、少しでも安心して過ごしていけるように訓練を続けていきたいと思っています。

〔利用者様の安全な送迎〕

暴風警報が発令された際には利用者様の安全を最優先とし、原則施設の営業は中止となります。営業中に暴風警報が発令されそうであれば、影響が大きくなる前に帰宅していただく場合もあります。また大雨で冠水しやすい場所や河川の氾濫、崖崩れ等が予想される場所を事前に調査し、その場所を避けて送迎を行うようにしています。豊橋市防災危機管理課のサイトにわかりやすいハザードマップが掲載されていますので、皆様も安全な避難ルートの確認をしてみてはいかがでしょうか。

■特別養護老人ホームさわらび荘

さわらび荘では、立地条件から水に関する災害の心配はありませんが、地震や近年多発している大型台風による停電への備えが必要です。特に停電への備えとして、プロパンガス使用発電機を2台、ガソリ



ン使用発電機を4台保管し、1年間に2回以上取り扱い訓練を行っております。また、電気機器点検時の停電時に判明した明かりの確保、エアーマットなどを活用する際の延長コードの確保などに対して、発電機からの電力を各居室までの職員でも簡単に繋げられる工夫を行っています。

大規模地震などへの備えはもちろんですが、近年頻回に発生する大型台風の影響による停電に対する備えをしっかりと行い、入居者様が安心して生活できる環境を整えてまいります。

(渡邊憲)

■さわらび荘デイサービスセンター

デイサービスでは、併設のさわらび荘と合同で定期的に防災訓練を実施し、災害時の連携や対応手順を確認しています。特に懸念される大雨時の対応については、メディアによる災害情報をリアルタイムで確認し、送迎時にはハザードマップや交通情報アプリを活用することで、道路状況や浸水の危険性を確認しながら、安全を最優先としたルートを選択しています。また、万が一利用者様の帰宅が困難となった場合には、安全が確保できるまで職員が施設で付き添い、必要に応じて備蓄食料をこ

提供できる体制も整えております。これからも「もしも」に備えた取り組みを継続し、利用者様とご家族に安心していただける施設づくりに努めてまいります。

(太田英)

■認知症対応型共同生活介護事業所

グループホーム白珠

白珠は水害や土砂災害による心配は少ない地域にあります。大規模地震に伴う被害が心配です。停電時に備え準備している懐中電灯(LED)がどれくらい明るいのか、皆さんの反応はどうか確認しました。各部屋にひとつずつある懐中電灯をリビングのテーブルに置いてみました。誘導灯もあるため皆さんからは、「これくらい明るいければ食事までできる」と確認できました。これからも少しずつ訓練を続けていきます。(島本)

■特別養護老人ホーム常盤

グループホーム常盤

当施設は、同一建物内に特別養護老人ホーム(定員29名)とグループホーム(定員18名)を併設しており、災害時には両施設の利用者様に加え、職員および地域の被災者5名の受入れを想定した防災体制を整えています。施設周辺は水

害や土砂災害の危険性が低い地域ですが、地震や停電等の災害に備え、非常食・備蓄水を5日分確保しています。また、利用者様の状態に応じた介護食も備蓄し、災害時においても継続した食事提供が可能な体制を整備しています。さらに、定期的に防災訓練を実施し、職員だけでなく地域住民の皆様にも参加いただきながら、避難訓練や消火器操作訓練、非常食の試食会を行うなど、地域と連携した防災意識の向上と災害対応力の強化に努めています。

(藤原)

■デイサービスセンター常盤

認知症対応型デイサービスでは、災害発生時に利用者様を安全にご自宅まで送迎できるよう、ハザードマップを活用し、安全な避難経路や送迎ルートを確認しています。また、数年前の線状降水帯による浸水実績箇所も把握し、危険箇所を回避した送迎計画を作成するなど、利用者様の安全確保を最優先とした防災・減災対策に今後も取り組んでまいります。

(中坪)

■第二さわらび荘

第二さわらび荘は福祉村の中にあり、線状降水帯などによる大雨

の影響を受けづらい場所に建っています。これまでも大雨の際には施設内で問題は起こりませんでした。また、職員の出退勤の際に道路が冠水しているなどの問題は発生しました。職員が安全に出退勤できるといっても、事業を継続する上で重要な視点ですので、災害時にも事業を継続できるように努めていきたいと考えています。

また利用者の皆様が安心して特別養護老人ホームでの生活を継続していただけるように災害時の備蓄品などを定期的に確認し、補充もしてまいります。

(東郡)

■特別養護老人ホーム

カサブランカ

当施設は裏手に柳生川が流れる立地にあることから、水害への備えを特に重要視しています。近年、全国各地で豪雨による浸水被害が発生していることも踏まえ、水害を想定した防災・減災対策に力を入れていきます。

水害時には、建物のより安全な上階へ避難する「垂直避難」が重要となるため、車いすをご利用されている方を想定した階



段昇降訓練を実施しています。職員が役割分担や介助方法を確認し、迅速かつ安全に避難できるように実践的な訓練を重ねています。

また、停電時にも必要な機器を使用できるようポータブル電源を配備し、非常時のライフライン確保にも取り組んでいます。今後、訓練や設備の充実を図りながら、防災・減災への取り組みを継続し、利用者様やご家族の皆様が安心して過ごせる施設づくりに努めてまいります。

(小久保)

■特別養護老人ホーム 天伯

当施設では、災害発生時に備え、数日分の非常食および飲料水を備蓄するとともに、停電時にも電力を確保できるようガス発電機2基を用意しております。これにより、ライフラインが一時的に途絶えた場合でも、利用者様の生活を継続的に支える体制を整えております。

また、年に1回、運営推進会議を通じて地域住民の皆様



ご見学いただき、施設の防災対応について地域と情報を共有する機会を設けております。

市が公表するハザードマップによれば、当施設は地震・津波、土砂災害、河川浸水、内水氾濫、高潮のいずれの危険区域にも該当しておらず、立地面においても比較的安全性の高い環境にあると考えられますが、今後も設備・体制の両面から備えを継続し、利用者が安心して生活できる環境づくりに努めてまいります。(塩見)

■グループホーム フジ

グループホームフジは、豊橋市の中心部に位置しており、自然災害に関して、豊橋市のハザードマップでは特に問題なしとされています。

フジでは毎年2月と8月に防災訓練を行っています。8月の訓練では、実際に非常通報装置を使い、消防署へ通報、消防署の返信を受け、本番さながらに避難しています。全員が防災頭巾かヘルメットを装着しています。施設前には、豊橋中



消防署があり消防署から、フジの避難先は各階のベランダがベストです。「大きな声を出して、手を振り助けを求めてください」とアドバイスをいただいています。毎回、実践しています。

又、防災訓練後は、消防署からお借りした水消火器を使い、全職員が消火訓練を行っています。施設にはスプリンクラーが設置されています。初期消火に失敗した後は、早急に安全な場所へ避難誘導することもアドバイスされています。

火災を発生させないことが第一ですが万一に備えて繰り返し訓練しています。

その他には、台風時施設前の道路から多量の雨水の流入が想定されます。施設玄関横に、常時土嚢を用意しています。雨量が多い時は土嚢を玄関前に設置し、玄関内側には水嚢を設置しています。開設以来、浸水はありませんが大切な皆様の命を守るため、日々備えております。(白井)

■軽費老人ホーム 若菜荘

若菜荘では、日頃より災害時に備えて利用者様の安全を守るための取組みや体制を整えています。今年度は、4月に大規模地震発

生を想定し、利用者様の安否確認を実際に行いました。一部屋一部屋利用者様の安否を迅速に、確実に確認をする訓練を行いました。

その後は、非常食を使用して炊き出し訓練を行いました。中庭で臨時の調理場所を設置し、厨房職員以外の職員で、非常食を使用して昼食の準備を行いました。実際に調理してみても、出来上がりまでにかかる時間や、水分量を増やした方が白飯がおいしく仕上がる等気がついた点も多くありました。炊き出し訓練はほとんどの職員が初めてで、大変有意義な訓練となりました。7月には、夜間の火災発生想定で避難訓練を実施いたしました。

毎年、11月には地域の消防分団との合同防災訓練も実施しております。今後も、BCPの見直し、物品の見直し、非常食の入替え等も継続して行い、いつ災害がおきても困らない準備をしていきます。(北風)

■サービス付高齢者向け住宅 シャトーローズ八町

シャトーローズ八町では、防災・減災に向けて実践的な取り組みとして、6階等から非常階段を経由し、地上の指定避難場所(駐車場)

へ向かう避難誘導訓練を実施しました。

当日は地震が発生し、厨房より火災発生館内放送を合図に、職員の誘導でエレベーターを使わず、6階等から非常階段を使って安全に下へ移動しました。長い階段の移動に「初めて非常階段を使うため、不安はあったが無事に降りられて自信になった」との声を入居者様からいただき、寄り添って声をかけ合う大切さを実感しました。

地上に出た後も安全に配慮しながら、指定避難場所(駐車場)へ誘導し、全員の無事を確認しました。

今回の成果と課題を今後のマニュアル改善に活かし、いざという時に入居者様の命を守る防災体制をさらに強化していきます。また、入居者様、デイ利用者様、地域の方用に3日分の備蓄も確保しております。(加藤)

■介護付有料老人ホーム フェリス福祉村

フェリス福祉村では利用者定員72名の3日分の食料、飲料水の備蓄を進めています。また火災発生を想定した避難訓練を年に2回実施しています。(瀧崎)

実習生受け入れ

～さわらび地域包括支援センター～

7月13日から24日にかけて豊橋創造大学より看護学科4年生2名の実習を受け入れました。

地域包括支援センターには、保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員の3職種が配置されているのですが、それぞれの職種とともに実際に地域の高齢者への訪問や多職種連携のための情報交換会、地域での啓発活動などにも参加していただきました。今回は看護学科でも保健師を目指している学生さんでしたので、主には保健師職がメインに担当しましたが、今後も実習生を積極的に受け入れていきたいと思っています。(白井)



防犯対策訓練

～特別養護老人ホームさわらび荘～

さわらび荘に入所をされている方々は、様々な理由で多くの方がご自身で逃げるのが難しいです。火災や地震が発生した想定での避難訓練は定期的に行っていますが、万一不審者が施設に侵入した際の訓練が必要との意見があり、7月3日に防犯対策訓練を行いました。

不審者役の職員が施設内に侵入した想定で、職員自身の安全を守りながら、施設内の生活スペースに不審者を侵入させない対応の訓練、訓練後の検証を行い、改善策を考えています。今後も定期的に訓練を行います。皆様の安全を守っていきます。(渡邊憲)



防災訓練

～軽費老人ホーム若菜荘～

7月14日、夜間に火災が発生した場合を想定した防災訓練を実施しました。

今回は、浜島防災様にも協力をしていただき実際に近い形で消防に連絡、取り残された入居者様を安全に避難誘導を行うために、懐中電灯、反射ベストを着用するなど夜間特有の課題に重点を置いて取り組みました。

最後に浜島防災による防災設備の場所、使い方を指導していただきました。災害はいつ起こるか分かりません、入居者様が安心して生活できるように、さらなる安全対策を進めてまいります。(末松)



感染症シミュレーションを実施しました

～障害者支援施設あかね荘～

7月9日～10日にかけて、感染症のシミュレーションを行いました。

9日の夜間に3人の利用者様が39℃の熱が出て、翌日の10日の朝には、さらに男性2名、女性1名と前日にあかね荘を利用したあかねホーム1名の利用者様が熱を出したことを想定としました。

コロナ禍以降、世間一般的にもあかね荘内でもさまざまな基準が緩和され、感染症のマニュアルも変更してきました。今回のシミュレーションでは、マニュアルの内容確認と実効性の検証をしました。

あかね荘の利用者様は、マスクをすることができない方や居室に居ることができない方が多くいらっしゃいます。そのため、一人でも感染症に罹患してしまうと、ほとんどの利用者様にうつってしまう、早急な対応が求められます。新しく入職した職員はコロナ禍での対応を経験しておらず、夜間に利用者様が発熱された時の対応を心配していました。また、不規則勤務のため、すべての職員がシミュレーションに参加できるわけではありません。そのため、こういったシミュレーションは定期的に行っていくと思っています。(香名)

行事報告

～地域密着型サービス事業所 常盤～

7月17日、数年ぶりに「夏祭り」を開催しました。ご家族にも参加していただき、ゲームをしたりお菓子を食べたり、楽しい時間を過ごしました。今後、入居者様とご家族に喜んでいただけるよう、なようなイベントを計画したいと思います。



(藤原)

～軽費老人ホーム 若菜荘～

7月16日に6名の入居者様が豊川市篠田町の蓮の池見学に参加されました。蓮の花は10時頃閉じるとのこと、9時に出発、少し見頃はすぎているが、淡いピンクの花がたくさん咲いていました。



(山下)

～障害福祉サービス事業所 しらがねすみれ～

7月7日に七夕イベントを行いました。しらがねでは部屋を暗くして星空の映像を流し、それぞれ願い事をしました。すみれでは星形のピザを焼き、思い思いのトッピングをして七夕を楽しみました。



(宮下)

～福祉村障害福祉サービス事業所 しらがね～

7月24日にサマーパラダイスを実施しました。屋台の金魚すくいを模したアヒルすくい。水鉄砲で的当てゲームを行いました。思っていた以上に水鉄砲の扱いが上手な利用者さん、アヒルをすくう利用者さん、暑さ対策をしながら、それぞれ楽しく過ごしました。



(伊藤)

～特別養護老人ホーム 第二さわらび荘～

8月20日、家族会の皆様のご協力のもと、第二さわらび荘にて夏祭りを開催しました。1階ふれあいホールでは、輪投げやボーリングなどのゲームを行い、ゲームを楽しんだ後は各ユニットに戻り、アイスなどの冷たい飲食を味わいながら、夏ならではのひとときを満喫していただきました。ご協力いただいた家族会の皆様、ご来荘くださったご家族の皆様、心より感謝申し上げます。



(塩見)

～障害者支援施設 珠藻荘～

7月29日、福祉村保育園との交流会でスイカ割り大会を開催いたしました。スイカ割りを通して、珠藻荘の利用者様と保育園児さん達と交流を楽しみました。



(岩水)

日々彼は是

谷さゆり

暑い日の食事は常備菜で

今年の4月17日、最高気温40℃以上の日の名称が「酷暑日」に決まり気象庁から発表されました。酷暑日、40℃以上の気温で観測されたらきつとニュースで「なんと〇〇市で酷暑日となりました！」と大きな見出しで報道されるんだろうなと呑気に構えていたら、実際は酷暑日の連続でした。名古屋へ何度か出かける事がありました。がじりじりと空気の暑さが伝わってきます。し風のある時は熱風に煽られサウナ状態。地上を歩く人影もまばらで皆さん地下へと避難していました。名古屋や尾張、西濃や内陸にある豊田市などが酷暑日に。そんな日は海に面した東三河の豊橋でも35℃前後の高温になりました。暑くて台所で料理するのも「苦勞」。火を使うときは朝5時前後に起床し鉄瓶でお湯を沸かすのですが、鉄瓶本体が熱を持ち続けて熱源に。汁物も野菜等を時間をかけてじっくりと煮込むことが多いので沸騰したら弱火にしてから火のそばから離れて洗い物など他の家事などをこなしてから火を止めていました。換気

扇を回しても熱がこもってしまうため大型のサーキュレーターを投入しましたが風向きによってはガスの炎が消えてしまったことも！いかに涼しくご飯を作るか試行錯誤の連続でしたがそれでも暑すぎて料理したくない。どうしようかと思っていたところ材料を切つて酢につけるだけの常備菜を備蓄することになりました。作ったのは酢キャベツと酢玉ねぎ。酢キャベツはキャベツ500グラムを食べやすく切ったら塩小さじ1・5杯を振りかけて揉み込み、しんなりするまで筥の上で10分程度放置。こうしておくとき水切りが楽ちんです。水切りしたキャベツを保存瓶に入れて酢を注いで冷蔵庫で半日以上寝かせれば出来上がり。酢玉ねぎはもつと簡単に玉ねぎ1玉を縦半分に切り、それを縦薄切りにしたら縮緬じやこと一緒に保存瓶に入れ酢を漬かるまで注ぎ入れ冷蔵庫で半日以上寝かせたら出来上がり。この2つを常備するようになってからは料理をしたくない日でもツナ缶の上に片方または両方をたっぶり乗せれば料理が一品出来上がり。お豆腐や納豆の上に載せても美味しいです。酢キャベツや酢玉ねぎが終わりそうなときは保存瓶に残っている酢も一緒に鍋に投入、玉子を溶いてスープにして食べられます。酢漬けにしてあるからほとんど加熱しなくても大丈夫なので沸騰し玉子が半熟になったところで火を止めれば完成です。この2つの酢漬け常備菜のおかげで暑さと闘いながら作る料理が減りました。

Vol.141 relax column さわらび会 のわ

福祉村病院 調理員
立岩 志保



私は、福祉村病院に入社して30年になります。一緒に暮らしていた祖母が糖尿病で食事制限をしていたことから食事に興味を持ち、高校では食物科に進み、調理師免許を取得しました。高校時代、福祉に関心を持っていた友人に誘われて手話サークルに入り、夏休みには学校を通じて、複数の福祉施設へボランティアに行きました。その中で、さわらび会の施設にも伺いました。友人と訪問する日を間違えてしまったのですが、職員の皆さんが優しく対応してくださり、その時のことが今でも心に残っています。その経験もあり、さわらび会で働くことになりました。入社して30年、調理の仕事が続けてきました。大変なこともありましたが、「美味しかった」「いつもありがと」の声を聞く嬉しく思います。これからも初心を忘れず、安心して食事をしていただけるよう食事提供をしていきたいと思っています。

私のふるさと

福祉村病院 看護師

ソリハトウン・ハサナー

出身 ● インドネシア・中部ジャワ州

テムンゲン県

学歴 ● EPA

資格 ● 看護師



私のふるさととは、インドネシア中部ジャワ州にあるテムンゲンです。日本ではまだあまり知られていない町ですが、私にとっては世界で一番大切な場所です。

テムンゲンは、シンドロ山とスピン山という二つの美しい山に囲まれた、自然豊かな町です。朝は澄んだ空気に包まれ、晴れた日には山の間から昇る朝日を見ることが出来ます。その美しい景色は、子どもの頃から私にとって当たり前の風景でしたが、日本で暮らすようになった今では、かけがえない故郷の思い出になっています。

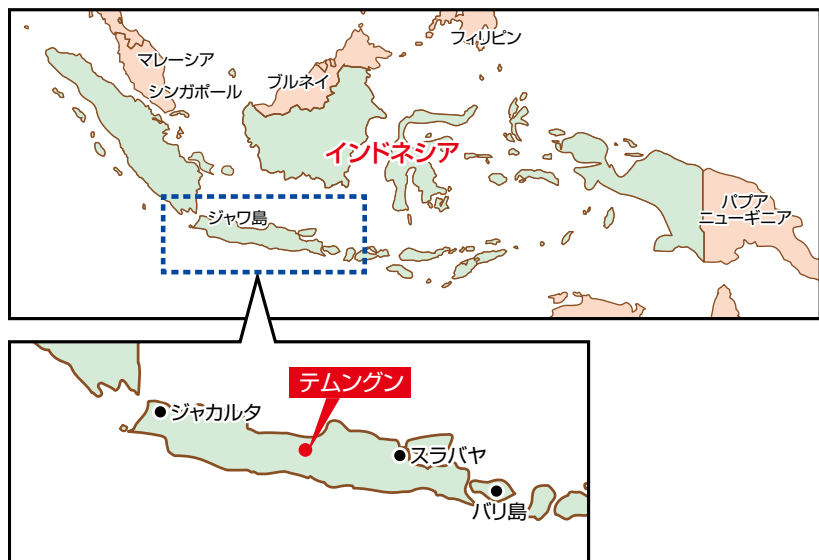
テムンゲンは、インドネシアを代表するたばこの産地として知られています。収穫の季節になると、家の前や畑にはたばこの葉を干す風景が広がり、町全体が活気にあふれます。また、香り豊かなコーヒーの産地としても有名です。

実は、私のふるさとには少し不思議な話があります。昔、テムンゲンには隕石が落下したことで知られており、今でも地元では語り継がれています。子どもの頃、その話を聞いた私は、「宇宙の出来事が自分の町で起きたなんて」と、とても驚いたことを覚えています。

帰省したら必ず食べたくなる料理は、「クパツト・タフ」です。クパツト（ヤシの葉で包んだご飯）と揚げた豆腐、野菜に甘辛いピーナッツソースをかけた、とても素朴な料理ですが、私にとっては家族との思い出が詰まった特別な故郷の味です。

現在、私は日本で看護師として働いています。日本には四季があり、それぞれに美しい景色があります。一方、テムンゲンには一年を通して緑

インドネシア 中部ジャワ周辺の主要都市



や澄んだ空気、そして家族や地域の温かさ、いつも私の心の支えです。これからの故郷で学んだ「人を思いやる心」と「一生懸命努力する気持ち」を大切にしながら、日本で看護師として成長していきたいと思っています。



豊かな自然が広がっています。どちらにも違った魅力があり、私はその両方を大切に思っています。

第148回 さわらびキッチン
栄養士のつぶやき
第二さわらび荘 管理栄養士 後藤 沙織

秋になると店頭に並び始めるさつまいも。甘くて美味しいだけでなく、栄養も豊富な食材です。

さつまいもにはエネルギー源となる炭水化物が含まれており、主食の一部としても活用できます。また、食物繊維が豊富で腸内環境を整える働きが期待できます。

特に、さつまいもを切った時に出る白い液体には「ヤラピン」という成分が含まれており、食物繊維とともにスムーズなお通じをサポートすると言われています。

さらに、さつまいもにはビタミンCも多く含まれています。ビタミンCは熱に弱い栄養素ですが、さつまいもに含まれるものはでんぷんに守られているため加熱しても比較的失われにくいのが特徴です。肌や血管の健康維持にも役立ちます。

美味しく食べるポイントは、じっくり加熱すること。低温でゆっくり火を通すことで甘みが増し、より美味しく味わえます。焼き芋はもちろん、味噌汁や炊き込みご飯、サラダなどにもおすすめです。

ただし、食べすぎには注意が必要です。さつまいもは栄養価が高い一方でエネルギー量もあるため、間食として食べる場合は1/2本程度を目安にするとよいでしょう。

秋の味覚を楽しみながら、さつまいもの豊富な栄養を毎日の食事に取り入れてみてはいかがでしょうか。

SAWARABI
ちあらび——14

さわらび会後援会寄附ご芳名

令和8年7月6日～令和8年8月5日

10,000 円

10,000 円

10,000 円

10,000 円

1,000 円

たくさんのご寄付ありがとうございました。

計 **41,000円**

現在までにご寄附いただきました金額は

903,115,561円

●福祉用具紹介のコーナー

瞬間スポットと 冷感タイプ

かかと部の硬いパーツで履きやすい人気商品の瞬間スポットとひんやり冷感タイプが仲間入り♪
接触冷感のインソールで履いた瞬間、足元からひんやり!

酷暑の昨今、足元から対策されてはいかがでしょう?

(福祉村地域包括支援センター 村井)



販売価格:3E...7,590円 5E...9,350円

問い合わせ先

福祉サービス株式会社 ☎(0532)66-1011

2026年度 10月 交流イベント ～芸術の秋 段ボールアート～

芸術の秋をテーマに丸、四角、三角の段ボールを組み合わせて、建物、家などを作ります。立体的に組み立てることで、光の当たり方によって表情を変える特別なアート作品に仕上がります。作品作りに挑戦しましょう!

日 時 10月20日(火) 14:00～15:00

場 所 福祉村内芝生公園

(雨天:珠藻荘2階多目的ホール 50名程度)

参加費 無料

お申し込みは下記のメールアドレスまたは電話・FAXへご連絡ください。

担 当 障害福祉サービス事業所 しろがね

管理者:住吉 支援員:浅倉、森

T E L 0532-48-1032

F A X 0532-48-3244

M a i l sirogane@sawarabi.or.jp

ご参加ありがとうございました。 ～夏休み親子福祉体験講座～

8月11日に開催されました
夏休み親子福祉体験講座には
100家族327名の方に
ご参加いただきました。
ありがとうございました。

＊ お礼コーナー ありがとうございました ＊

※豊橋善意銀行を通して
▼三河海苔問屋共同組合様※
各種海苔寄贈(珠藻荘)

豊橋市指定無形民俗文化財 吉田(飽海)文楽に触れよう ～デイサービスセンター八町～



7月29日14:00から豊城中学校浄瑠璃部13名がデイサービス・サ高住の利用者様20名の前で人形浄瑠璃を上映してくれました。

阿波藩(徳島県)のお家騒動を題材にした物語である「傾城阿波の鳴門 巡礼歌の段」^{けいせい}を披露され、滑らかな人形の動きや生演奏の三味線、強弱のついた語りによる生徒さんたちの熱演に、利用者様もすっかり引き込まれていました。

「もう終わったの?あっという間の30分だったね」と名残惜しむほどでした。上演後、浄瑠璃クイズを通して生徒さんと触れ合う時間を設けることもでき、素晴らしい世代間交流ができました。(権田)

- 福祉村病院
☎ (0532) 46-7511
- 福祉村老人保健施設 ジュゲム
☎ (0532) 46-7501
- 特別養護老人ホーム さわらび荘
☎ (0532) 54-3501
法人本部 豊橋市浪ノ上町7-2
- グループホーム 白珠
☎ (0532) 66-0082
- 地域密着型サービス事業所 常盤
☎ (0532) 62-3370
- 特別養護老人ホーム 第二さわらび荘
ケアハウス カサ デ ローザ
☎ (0532) 37-1209
- 特別養護老人ホーム カサ プランカ
☎ (0532) 69-1701
- 地域密着型サービス事業所 カサ デヴェルデ
☎ (0532) 23-5552
- 特別養護老人ホーム 天伯
☎ (0532) 48-1113
- グループホーム フジ
☎ (0532) 54-5477
- 軽費老人ホーム 若菜荘
☎ (0532) 48-1138

- 障害者支援施設 珠藻荘
☎ (0532) 47-1050
- 障害者支援施設 あかね荘
☎ (0532) 48-2825
- 障害福祉サービス事業所 明日香
☎ (0532) 46-6579
- 福祉村障害福祉サービス事業所 しろがね
☎ (0532) 48-1032
- あかね荘 障害者生活支援センター
☎ (0532) 38-9090
- サービス付き高齢者向け住宅 シャトーローズ八町
☎ (0532) 52-0005
- 介護付き有料老人ホーム フェリス福祉村
☎ (0532) 47-2202
- 障害福祉サービス事業所 すみれ
☎ (0532) 38-5077
- 共同生活援助事業所 すみれホーム
☎ (0532) 29-8180



医療法人・社会福祉法人
さわらび会
理事長 山本孝之

令和8年熊本地震 令和8年8月千葉豪雨

など自然災害で被災された皆様へ
心よりお見舞いを申し上げます
1日も早い復興をお祈りしています

さわらびグループCEO/DEO 山本左近

医療法人 社会福祉法人 さわらび会 理事長 山本孝之

職員一同